

New year 2016

# 新春を



立科町議会議長  
土屋 春江

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新春を町民の皆様とともに迎えることができ大変うれしく思います。日ごろから議会活動に対する深いご理解とご支援をいただき心より感謝申し上げます。

さて、昨年の統一地方選挙で、新人五人、元議員一人を含めた十二人が選ばれ、議長と副議長が女性となるのは当初初のことではありますが、新しい体制でスタートすることができました。議員一人ひとりが町民皆様のために尽くす決意であります。宜しくお願い申し上げます。

昨年を振り返りますと、世界情勢は「過激派組織IS」による日本人拘束事件が発生し二人が殺害されるなど、世界各国で連続テロ事件が相次ぎ、恐怖を感じる一年でありました。

国内においては、茨城県常総市において、台風一八号がもたらした記録的な豪雨により、市内を流れる鬼怒川が決壊する「九月関東・東北豪雨災害」が発生し、住宅をはじめとし商工業・農作物なども甚大な被害を受けました。近年は、突発的な自然災害が各地で発生しておりますが、幸いにも当町はこれらの大きな災害もなくほぼ平穏な一年であり、災害の少ないこの地域に暮らせることに感謝するものであります。

経済状況については、安倍政権の経済

政策「アベノミクス」により為替や株式市場の状況からも、復調の兆しが見え始めているとは言うものの、地方までその効果は、いまだ波及しておらず引き続き厳しい状況にあります。

また、TPPは、昨年十月にアトランタ閣僚会合において大筋合意に至りはしましたが、当町の中心的産業であります農業にとって、どのような影響があるのか不安はぬぐいきれません。

町内においては、昨年は立科町合併六十周年の記念の年となり、記念式典が挙行されました。昭和三十年に三村が合併し立科村となり、昭和三十三年には町制が施行され、立科町となりました。国が進めた平成の大合併時には近隣でも多くの町村が合併しましたが、当町は、町民の大多数の意向により自立を選択し十年目を迎えた節目の年でもありました。この間には、経済が低迷し社会情勢は厳しい時期もありましたが、当町は財政の改善をしながら町の主要産業である観光と農業の振興を模索してきました。

国は昨年、日本全体の人口の将来展望を示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」とそれを踏まえた今後五か年の創生総合戦略を策定し、当町においても第五次立科町振興計画に沿って「立科町人口ビジョン」、「立科町総合戦略」を策定し、具体的事業を本格的に推進してい

くこととなりました。

新しい年を迎えますが、議会は「自立する自治体づくり」に向け、議員が一致団結し、開かれたわかり易い議会運営を行いながら、積極的な政策提案と無駄のない行政運営への監視とチェック機能の充実・強化を図ってまいります。

合併六十周年記念式典で開封されたタイムカプセルには、過去からたくさんの夢や希望が現在に託されていきました。同時に埋設されたタイムカプセルにも夢や希望が二十年後の未来へ託されたことと思えます。皆さんが二十年后に託した希望を、この立科町で受け取れるよう、より豊かな住みよい町づくりを目指して、皆様の期待に応えられるよう決意を新たにしておりますので、本年も変わらぬご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年が町民皆様方にとって実り多き年となりますことを心より祈念いたしまして年頭のごあいさつといたします。

